

## 第2学年 総合的な探究の時間 学習指導案

延暦寺学園 比叡山高等学校

教諭 金城 岳野

1. 単元名 「おもてな SHIGA」

2.

### 2. 単元の目標

○修学旅行先で出会った人たちに、自分たちが生活している地域の文化的・歴史的な背景を知り、修学旅行先で出会った人たちに伝える、案内するためのプランを作成することができる。

(知識及び技能)

○自分自身の目線や価値観だけではなく、現地の人たちのアイデンティティを考え、歴史的な背景のみならず、文化的背景について自らの考えを友人と共有したり、意見交換をしたりすることができる。

(思考力 判断力 表現力等)

○積極的に自らの意見を伝え、自分自身が関心のある内容を他者に伝えることができる。また、他者の意見や提案に対して寛容的に受け入れることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

本単元では本校の2年生で実施している探究型修学旅行と、自分たちが生活している滋賀県を題材に取り上げる。本校では、4つの行き先(北海道、東北・東京、鹿児島、沖縄)の中から生徒の思考や興味関心に応じて修学旅行を選択できるように設定されている。その中で、生徒たちは探究的な視点で、自分自身の視野や価値観を広げ、現地の文化や歴史的な背景を学ぶ。

事前学習では、現地で見たいもの、体験したいものを明確にするために文化的背景や歴史的背景を学ぶ。そして、それぞれの行き先の特徴や見所を知り、旅の目的を言語化する。事後学習では、それぞれが得た体験や情報をもとに、現地の人たちの歴史的背景や文化的背景を整理し、その人たちを滋賀県に招いて案内するための旅程を作成する。その中で自分たちが住む滋賀県について、見直し、大切にしたい部分や伝えたいものを確認することができる機会になると考えている。

#### (2) 生徒観

本学年の生徒の多くは滋賀県出身の出身生徒である。しかし、県内の歴史や文化的な体験ができる課外活動は設定されておらず、地域の人たちと関わる機会が多くない。延暦寺近辺ということもあり、生徒は歴史的風情を感じられる道を毎日登校しているが、地域に根差した課外活動は設定されておらず、滋賀県について考える機会が多くない。そのため、探究型修学旅行を通じて、自分たちの住む地域や大切にしたいものについて再度考える機会にしたい。

#### (3) 指導観

本単元の指導において、まずはそれぞれの行き先の行程に関する情報を引率教員や旅行社と連携しながら提示する。また、修学旅行のコースはクラスの枠を超えた多様な生徒で構成されている。そのため、生徒間においても普段は話す機会のない生徒同士が交流する機会でもある。その中で、このコースを選択した目的やそれぞれの性格や思考などを共有しながら新たな関係性を築けるように展開する。事前学習の中盤以降では、現地の方からオンラインなどの手法で直接顔合わせや説明を受ける機会を設

け、実際に現地で活動するという実感を持たせながら、自分たちにはない視点や価値観などに触れられる機会を提供する。その後、各生徒が事前学習を通して現地で知りたい内容や体験したいことを言語化していく。

修学旅行後には、現地で感じられたことや得られた学びを整理し、他の生徒と共有しながら学習の記録として残していく。そして、現地で出会った人たちの特性を整理し、アイデンティティを言語化していく。その後、その人たちを招くための旅程を作成して最終プレゼンを実施する。

#### **(4) ESD との関連**

##### **本学習で働かせる ESD の視点 (見方 考え方)**

多様性…自らがこれまで触れてこなかった文化や歴史的背景を知り、今までにはなかった視野を獲得する。

相互性…自分たちが住む街と、修学旅行先で出会った人や街との関連性を考える。

連携性…多様な仲間と、様々な意見を共有して受け入れ合える寛容性を獲得する。

責任性…旅程を作成し、修学旅行のまとめとして現地で出会った人たちをおもてなしするプロジェクトをやり切る。常に誰かの笑顔を作ることを念頭に遂行する。

##### **本学習を通して育てたい ESD の資質 能力**

###### **未来像を予測して計画を立てる力**

現地での活動において自分自身が見たい、得たいことを明確に言語化する。

旅程作成において、現地で出会った人々の幸福度を高められるような日程を考案する。

###### **多面的・総合的に考える力 (システムズ・シンキング)**

多様な意見を受け入れ合うことができる。修学旅行を通して得た経験や感想は同じ行程の中でも異なってくる。そのような多様な価値観を受け入れ合い、そこに意識を持って傾聴することができる。

###### **つながりを尊重する態度**

現地で出会った人を、自分たちの街やコミュニティと繋げて旅程を考えることができる。

そこには、歴史的、文化的、自然的な背景など様々な観点から繋がりを模索する。

##### **ESDで育てたい価値観**

###### **自然環境、生態系の保全を重視する。(生物多様性の重視)**

現地、自分たちが住んでいる地域において大切にしたいものを改めて考察する。特に自然的な活動が含まれる修学旅行においては、そのような視点は活動する上で重要である。

###### **人権・文化を尊重する。(文化多様性の尊重)**

現地で出会った人たちの、文化や暮らしを理解してその人たちのアイデンティティを理解することに努める。

###### **幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。**

最終的におもてなしをするための旅程を作成する。そのため、招く人たちの顔や笑顔を想像しながら、幸福感が高まるような旅程を考察する。

##### **達成が期待される SDGs**

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 4 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

(13 気候変動に具体的な対策を)

#### 4. 単元の評価規準

ア：知識及び技能	イ：思考力 判断力 表現力	ウ：主体的に学習に取り組む態度
① 自分たちが生活している地域や修学旅行先の文化的・歴史的な背景を知ることができる。 ② ③ 修学旅行先で出会った人たちに伝える、案内するためのプランを作成している。	① 自分自身の目線や価値観だけではなく、現地の人たちのアイデンティティを考えている。 ② 歴史的な背景のみならず、文化的背景について自らの考えを友人と共有したり、意見交換をしたりしている。	① 積極的に自らの意見を伝え、自分自身が関心のある内容を他者に伝えている。 ② ③ 他者の意見や提案に対して寛容的に受け入れている

#### 5. 単元の指導計画（全10時間+α）

	学習活動	学習支援	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行コースメンバーの顔合わせ。</li> <li>コース選択の目的共有</li> <li>メンバーの背景を知るためのアイスブレイクの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒間で新しい関係性を作りやすいように、クラスや部活が偏らないようにグループ編成を行う。</li> <li>アイスブレイクも個人の特性や内面的な部分が出るようなものを扱う。(</li> </ul>	ウ①②：観察
2、3	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行の行程から現地の情報（自然、街、歴史、文化）をグループで分担して調べていく。</li> <li>→次回のZOOM講義までに調べる中で気になった部分の質問を作成しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行社や下見で現地を訪れた教員が中心となって現地を調べる上で必要になるキーワードを調べておく。(鹿児島コース：垂直分布、屋久杉、降水量など)</li> <li>生徒が情報をまとめられるようなしおりとして行程を入れ込んだものを作成する。</li> <li>質問を収集し、分野別などに分類して次回の講義に向けて生徒の思考を整理する。</li> </ul>	ア①：授業内ワークシート
4	ZOOM 講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>現地のコーディネーターの人から修学旅行先の文化、歴史的背景などについて解説を受ける。</li> <li>事前質問に対する回答を聞きながら自分たちで得た情報と実際に聞いた情報を擦り合わせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前質問をあらかじめコーディネーターの方に伝えておき、その情報を元に解説を実施してもらうように準備する。</li> <li>解説してもらう分野が多岐に渡りすぎないように前回までの生徒の思考から講義を行なってもらえるように準備する。</li> <li>→新たな質問が出るように生徒たちに話を聞くポイントを整理させる。(自然、歴史、文化、生活) など</li> </ul>	イ①、ウ① 授業内の質問、発言、観察
5	前回のZOOM講義からの事前情報まとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>前回の講義で、新しく得た情報や、自分自身のイメージとの相違などの擦り合わせを行う。</li> <li>→滋賀県（自分が住んでいる街）との共通点や近い部分を整理しておく（歴史、自然など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の講義の内容をあらかじめ整理しておく。</li> <li>生徒たちの情報と話の中で相違がありそうな部分をあらかじめ挙げておく。→活動の中で進展がない場合はその部分を問いとして考えさせる。</li> <li>これまでの生徒たちが調べた内容をいくつかのジャンルに分類しておく。</li> <li>→ある程度ベースは作成しておく。(自然、世界遺産、気候、歴史、文化など)</li> </ul>	ウ① 観察

6	<p>修学旅行前の最終確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行程の確認やこれまで得た情報をグループで共有。</li> <li>→全体で同じ情報を持って迎えるように準備を行う。</li> <li>★現地で見たいもの、体験したいものを明確に言語化する。</li> <li>→言語化した情報をさらに深ぼって調べていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒間で持っている情報に相違や差が生まれないように情報のすり合わせを行わせる。</li> <li>・生徒の目標設定や見たいもの、知りたいものをより具体的に言語化させる。</li> <li>→抽象的な生徒がいた場合には、より詳細な視野を持たせるように促す。</li> <li>(例：屋久島の自然を感じる！→屋久島の植生や垂直分布の実態を探る！など)</li> </ul>	<p>ア①：ワークシート イ②：発表、ワークシート ウ②：観察</p>
α	<p>修学旅行実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム毎のリフレクション</li> <li>・本日の1枚コンテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が簡易的に、その場でリフレクションが行えるような方法を準備しておく。</li> <li>・記録が簡単に残せるようなツールを準備する。</li> <li>・写真の記録も他の班が見られるように共有できるツールを作成する。</li> <li>*可能であれば現地の人たちに滋賀県招待企画を広報する。</li> </ul>	<p>ア① イ①② ウ①② 観察、メモ</p>
7	<p>修学旅行振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが見たかったものや体験したいと名言していた事への振り返りを行う。</li> <li>→グループ内で共有する</li> <li>・現地で出会った人に対してどのような印象や、感想を整理する。</li> <li>→印象的だった出会いや、体験を絞り込んでまとめていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ興味関心を持った生徒同士をグルーピングする。</li> <li>同じものに対する捉え方の違いやそれぞれの価値観が異なる部分を共有させる。</li> <li>その後、ランダムに分類されたグループに戻り、それぞれが得たことを共有させる。</li> </ul> <p>出会った人の中で、印象的だった人を数名挙げる。</p> <p>→その人の性格や特徴をまとめる</p>	<p>ア②：ワークシート、観察 ウ①：観察</p>
8 ～ 9	<p>行程作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地で出会った人を滋賀に招待するための旅程作り</li> <li>・滋賀県、自分たちが住む地域の大切にしたい場所、文化、環境などを列挙する。</li> <li>・招待したい人たちの価値観や、印象を元に行程を作成していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行程のロールモデルをあらかじめ作成しておく。(宿泊先や、時間の設定など)</li> <li>例：農家で自然を大切にしている人</li> <li>→滋賀の農業を知ってもらえるような行程</li> <li>上記のようなロールモデルを作成し、生徒が作業のイメージを持ちやすいようにする。</li> </ul>	<p>ア②：ワークシート、観察 ウ②：観察</p>
10	<p>最終プレゼン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地で出会った人たちを滋賀に招待する旅程のプレゼンを行う。</li> <li>→質問タイム、投票タイムにて生徒感でFBを行う。</li> <li>・業者や現地コーディネーターなどからもFBや評価してもらう。</li> <li>→最優秀プレゼンを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションにおける評価項目を作成し、生徒間での相互評価ができるように準備しておく。→プレゼンにおいては聴衆川の聴く態度が重要であることを生徒に伝えて双方のプレゼンに対して敬意を示すことを促す。</li> <li>・各班一つは質問を行えるように準備するように伝える。</li> <li>→こちらも生徒とは異なる視点や内容を深められるような質問を用意する。</li> <li>・最終的な評価を業者や現地コーディネーターと協議しながら、優秀賞を決める。</li> </ul>	<p>ア②、ウ①：発表</p>